

2018年12月実績概要(メモ)

(2019. 1. 24)

エチレン製造装置の高稼働が継続する中、誘導品の生産は足並みが揃わず。

1. 生産動向

イ) エチレン 563,000トン

前月比 + 0.7% (+ 3,900トン)

前年同月比 ▲ 2.5% (▲ 14,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	▲ 2.1%	▲ 2.1%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 0.5%	▲ 0.4%
生産増減率	+ 0.7%	▲ 2.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.9%→ 当月97.4%← 前年同月97.8%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

2018暦年生産量 6,155.9千トン、前年比▲5.7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加と定修規模差等からPP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、キシレンなどの11品目がプラス。LD、HD、EO、EG、BR、ベンゼンなどの6品目は主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、HD、MMAモノマー、EO、EG、BR、ベンゼン、トルエンなどの11品目がマイナス。PP、塩ビ樹脂、AN、キシレンなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、PPは日数増と稼働率要因から、PSは日数増と定修系列数の減少からそれぞれでプラスとなった。LD、HDは日数増があるものの主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、HDはマイナス、PP、PSはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少や昨今の原料情勢からみた先安気配から4樹脂揃ってのマイナスとなった。

前年比では、LD、HDでは輸入品の増加に伴うフィルム分野での出荷減少が大きく、前月に続いたのマイナス。PSは包装分野、FS分野等の出荷が総じて減少しマイナスとなった。PPはフィルム分野、繊維分野の出荷減があるが、射出成形分野の増加により微増となった。

ハ) 輸出

輸出は、前月比ではLDが微減、HD、PP、PSはプラスとなった。

前年比では、LD、HDは当該月の輸出量としては最低レベルの状況が続いており、引き続きマイナスとなった。PSは前年の輸出がやや低めであったこともありプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂で増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは横ばい、PP、PSはやや上昇した。在庫水準としては、LD、HDはやや高め、PPはタイト気味、PSはほぼ適正レベルとなった。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LD	+10,800	3.3	3.3
HD	+1,200	3.4	3.4
PP	+37,000	2.6	2.8
PS	+6,700	1.1	1.3